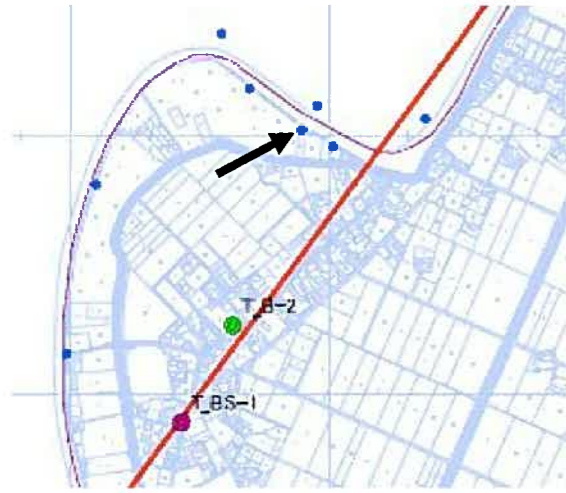
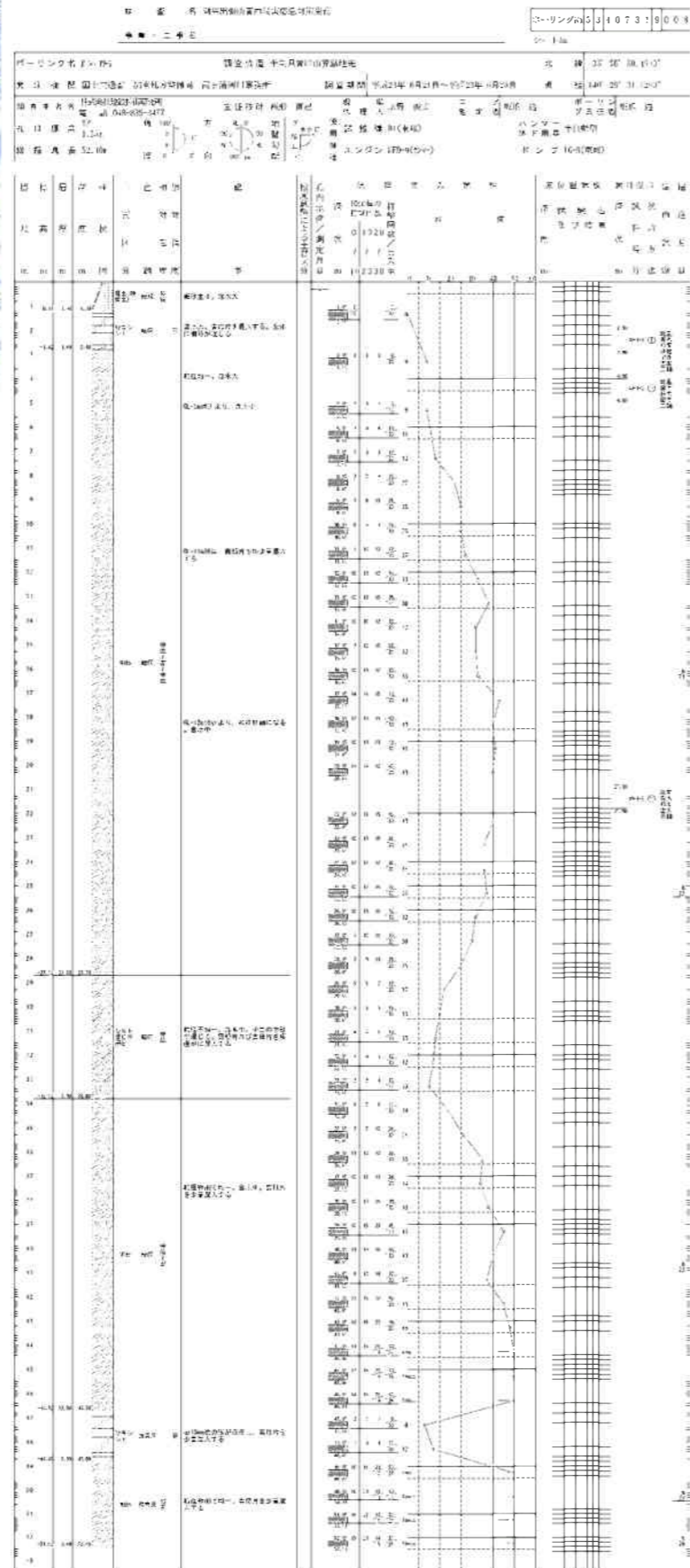




(3) 利根川以北 (箕島付近)



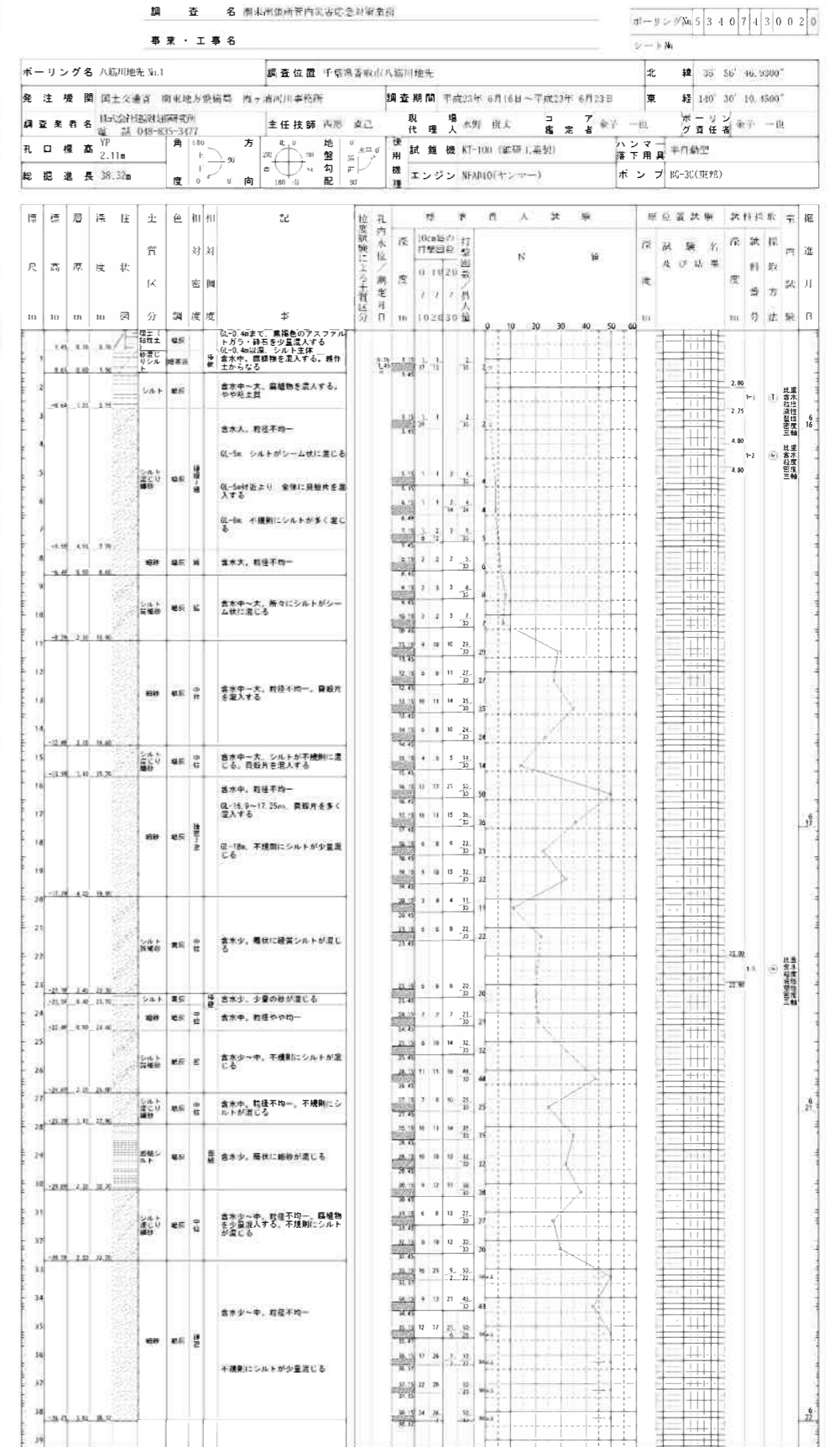
ボーリング柱状図



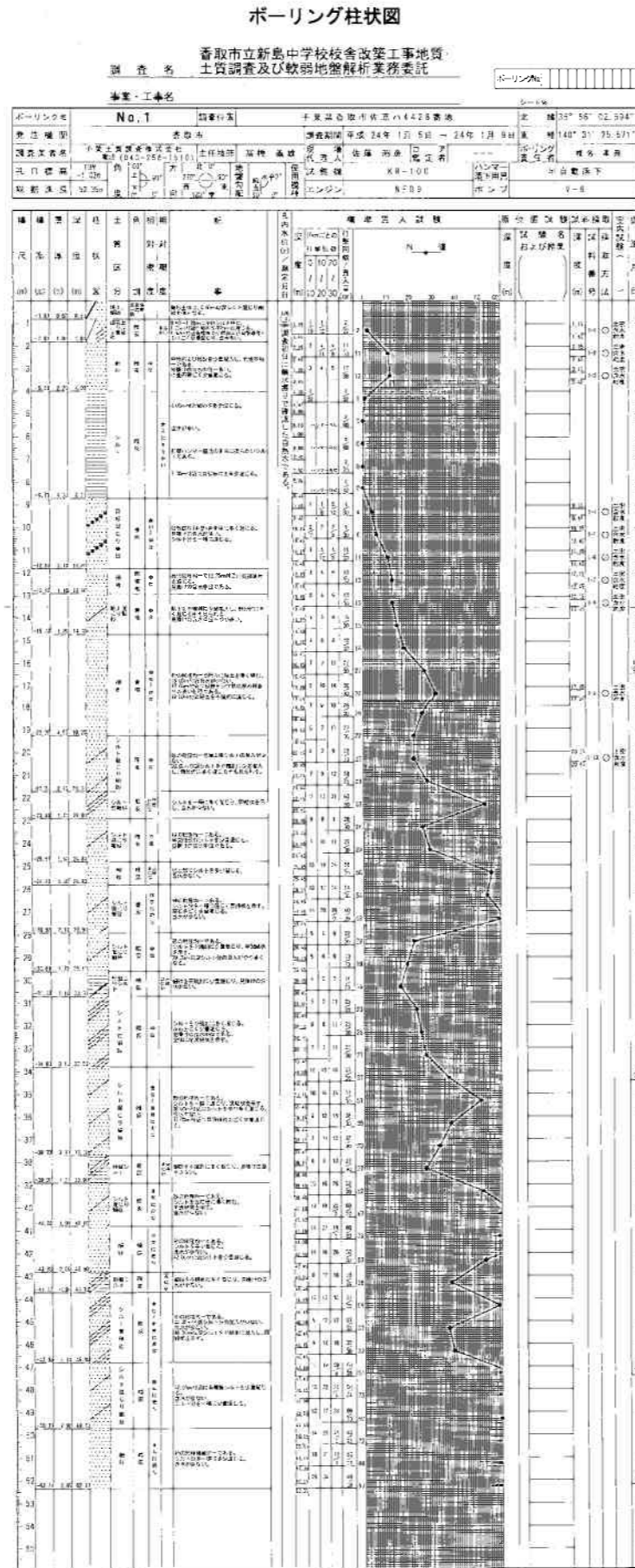
(4) 利根川以北 (大島付近)



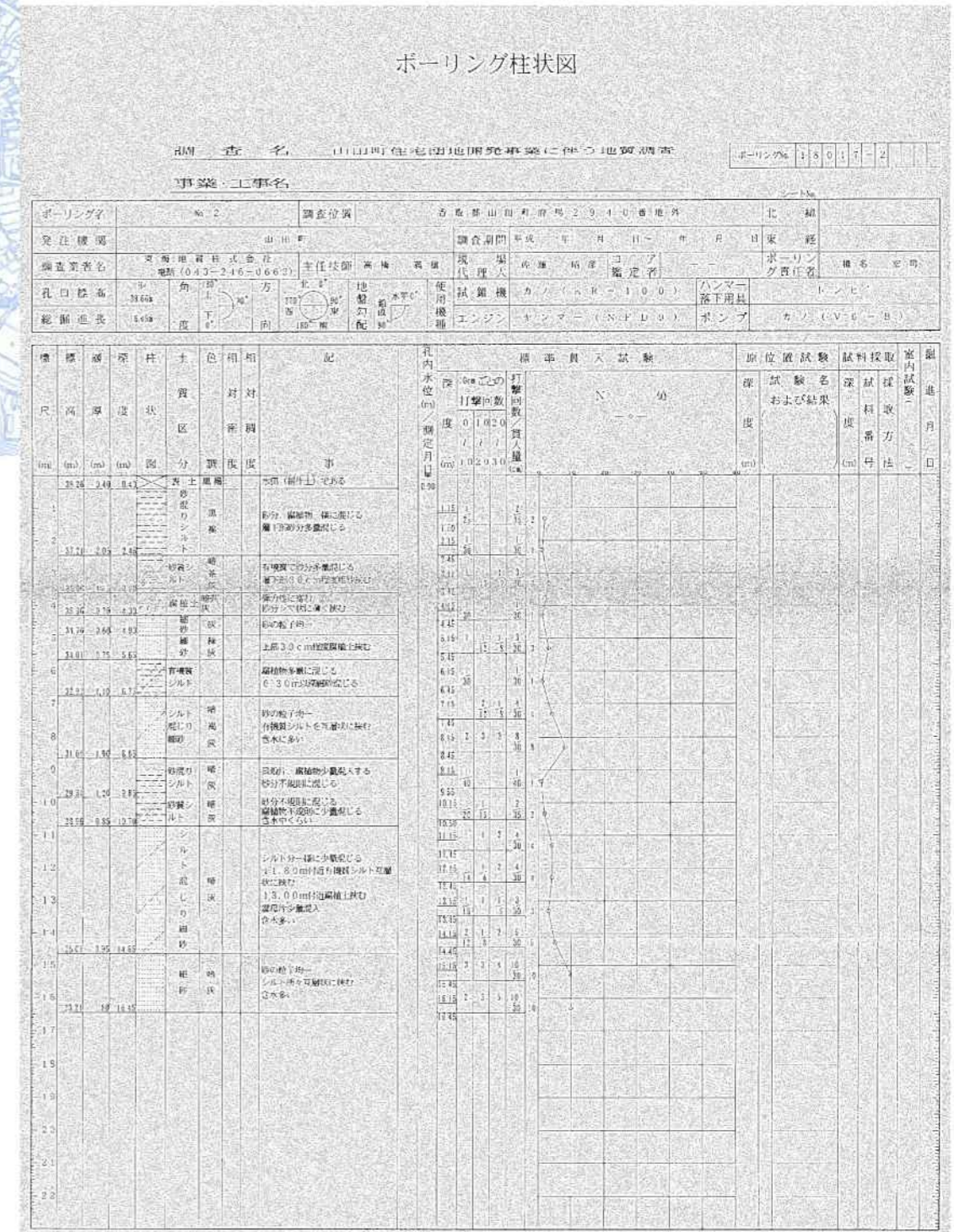
ボーリング柱状図



(5) 利根川以北 (新島中学校)



(6) 府馬地区 (山田団地)



# 試算結果

## 1. 佐原地区

### (1) 「建築基礎構造設計基準」(日本建築学会：2001年10月)に基づく液状化判定

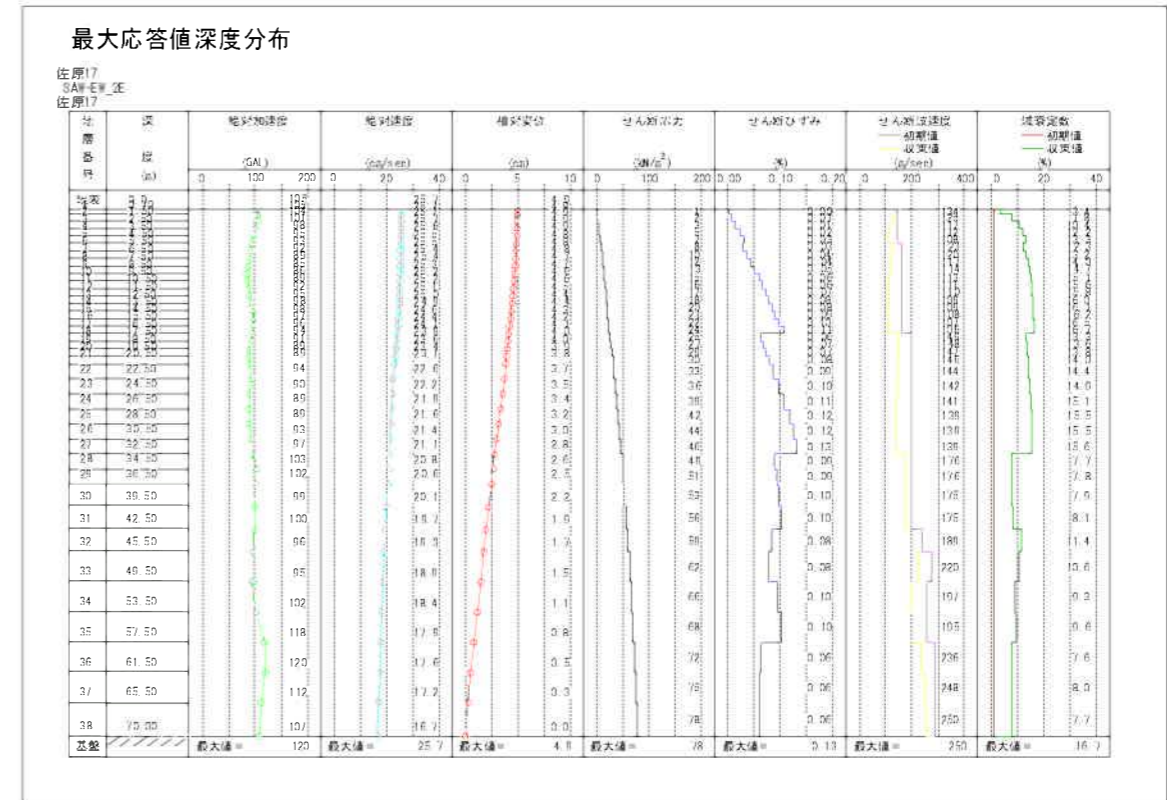
- ・地表面最大加速度：162gal (ガイダンス(案)に基づく)



- ・地表面最大加速度：249gal (観測値)

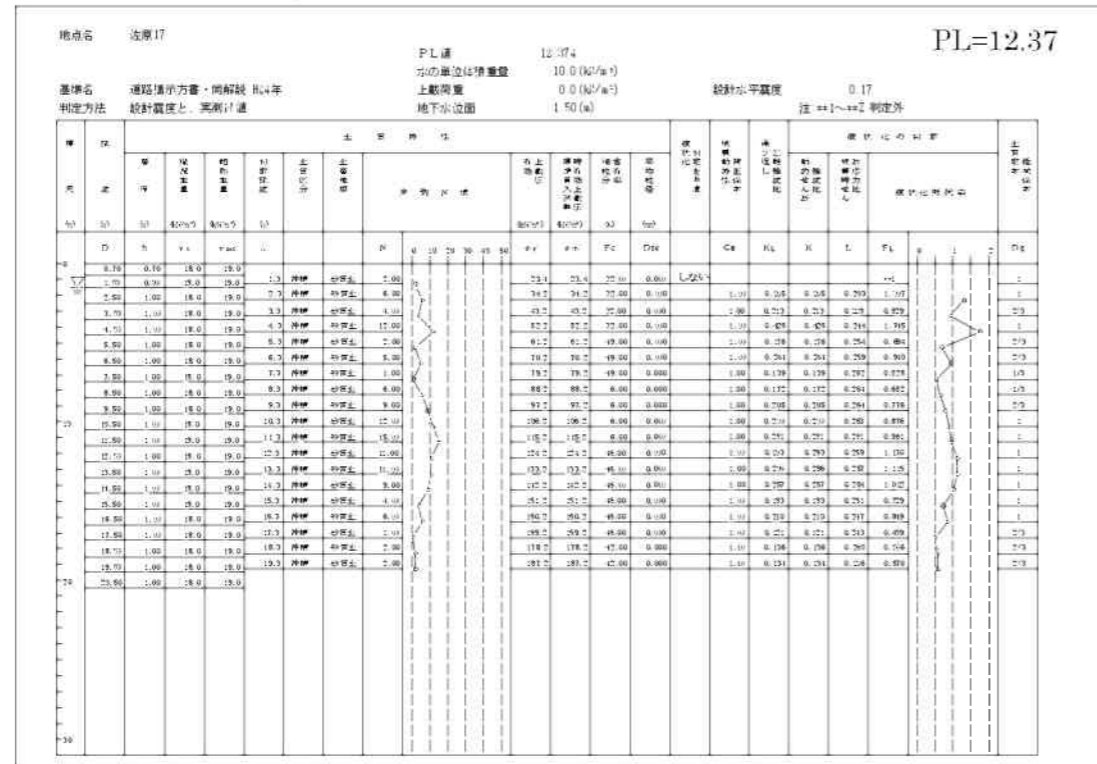


### (2) 「建築基礎構造設計基準」(日本建築学会：2001年10月)に基づく液状化判定 (地震応答解析を実施した場合)

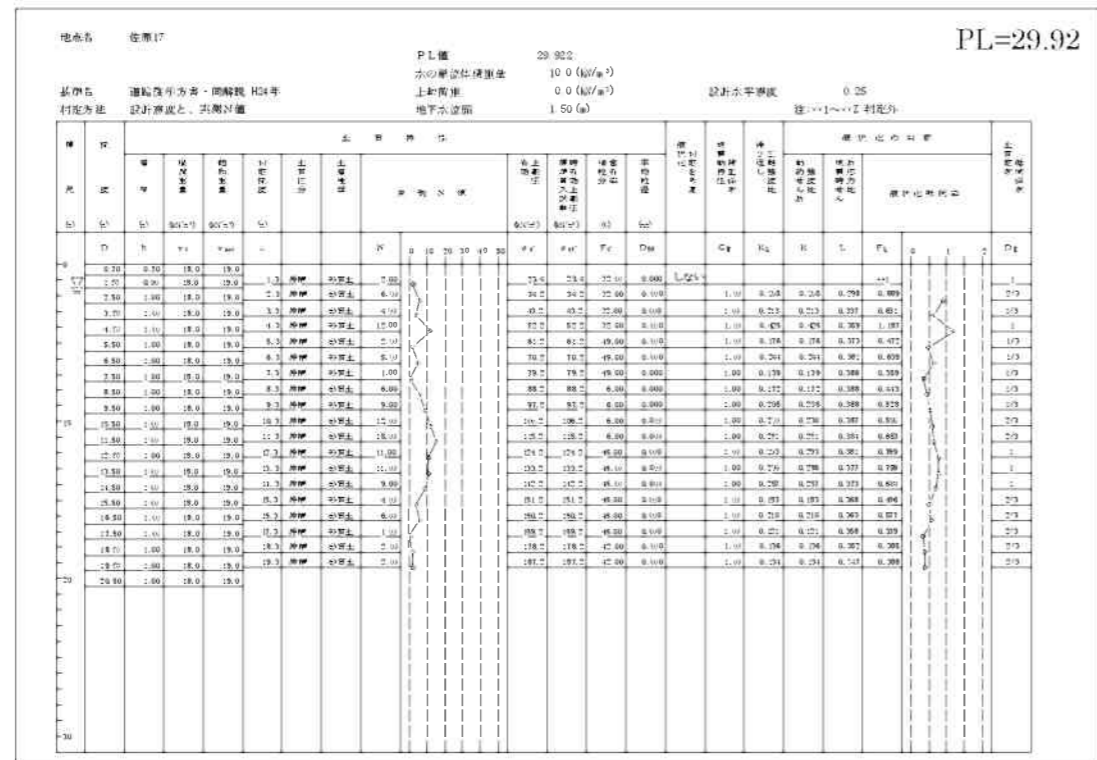


「建築基礎構造設計基準」に基づく液状化判定では、ガイダンス(案)に基づく場合、および地表面最大加速度 (観測値) を用いた場合ともに地盤全体が液状化する結果となった。地震応答解析を実施した場合は、N値の小さい箇所では液状化が発生しているが、地盤全体としてはあまり液状化していない結果となった。

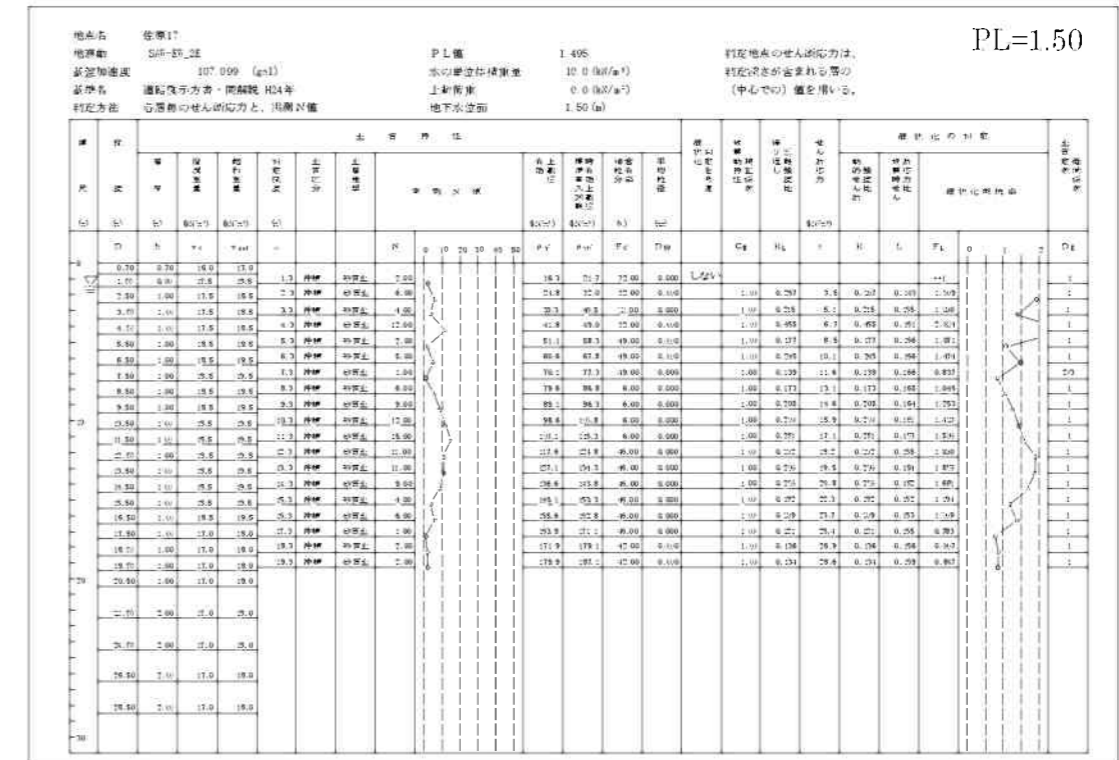
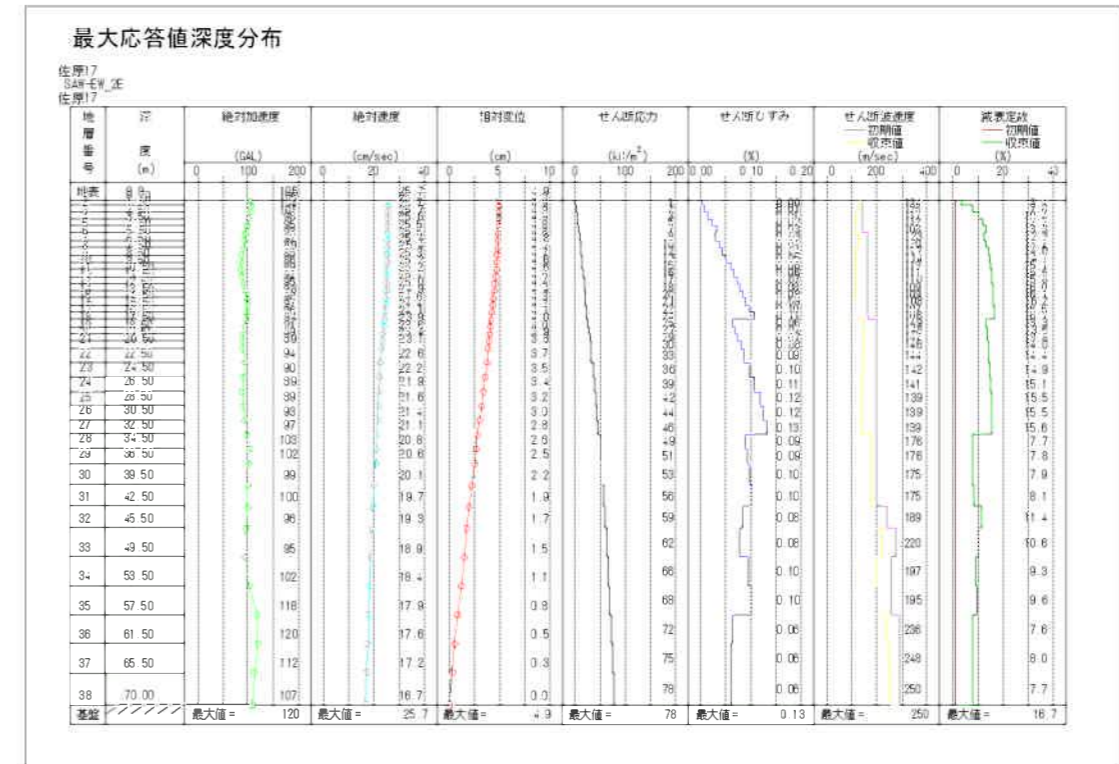
(3) 「道路橋示方書・同解説 V耐震設計編」(日本道路協会:平成24年3月)に基づく液状化判定  
 ・地表面最大加速度:162gal (ガイドランス(案)に基づく)



・地表面最大加速度:249gal (観測値)



(4) 「道路橋示方書・同解説 V耐震設計編」(日本道路協会:平成24年3月)に基づく液状化判定(地震応答解析を実施した場合)



道路橋示方書・同解説 V耐震設計編」に基づく液状化判定では、「建築基礎構造設計基準」に基づく液状化判定に比べて液状化程度が大きい結果となった。  
 各傾向は「建築基礎構造設計基準」に基づく液状化判定と同様、「建築基礎構造設計基準」に基づく液状化判定では、ガイドランス(案)に基づく場合、および地表面加速度(観測値)を用いた場合ともに地盤全体が液状化する結果となっている。

2. 小見川地区

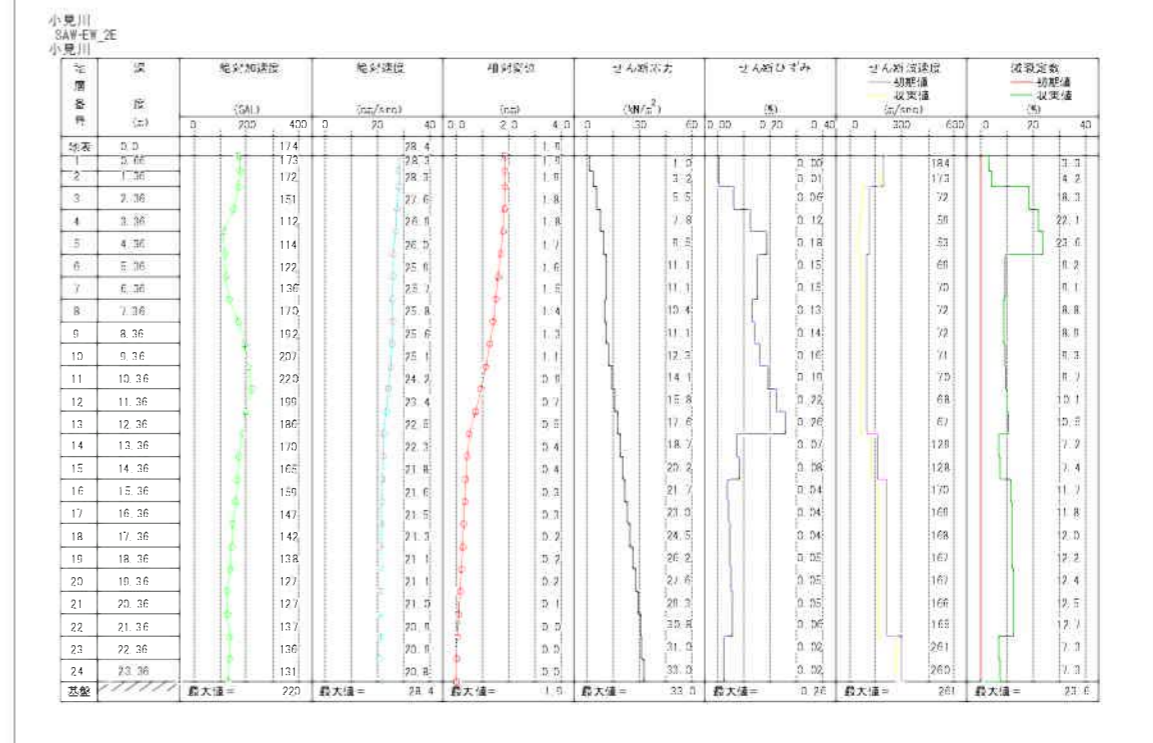
(1) 「建築基礎構造設計基準」(日本建築学会：2001年10月)に基づく液状化判定

- ・地表面最大加速度：108gal (ガイドランス(案)に基づく)

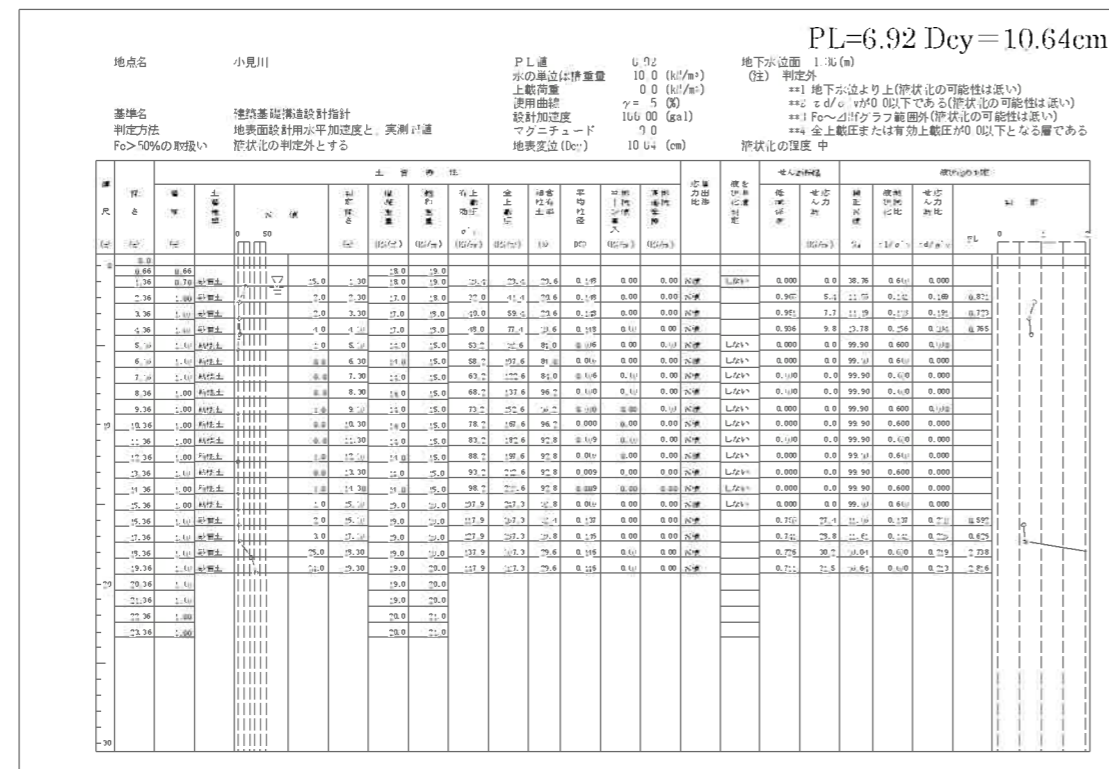


2) 「建築基礎構造設計基準」(日本建築学会：2001年10月)に基づく液状化判定(地震応答解析を実施した場合)

最大応答値深度分布



- ・地表面最大加速度：166gal (観測値)



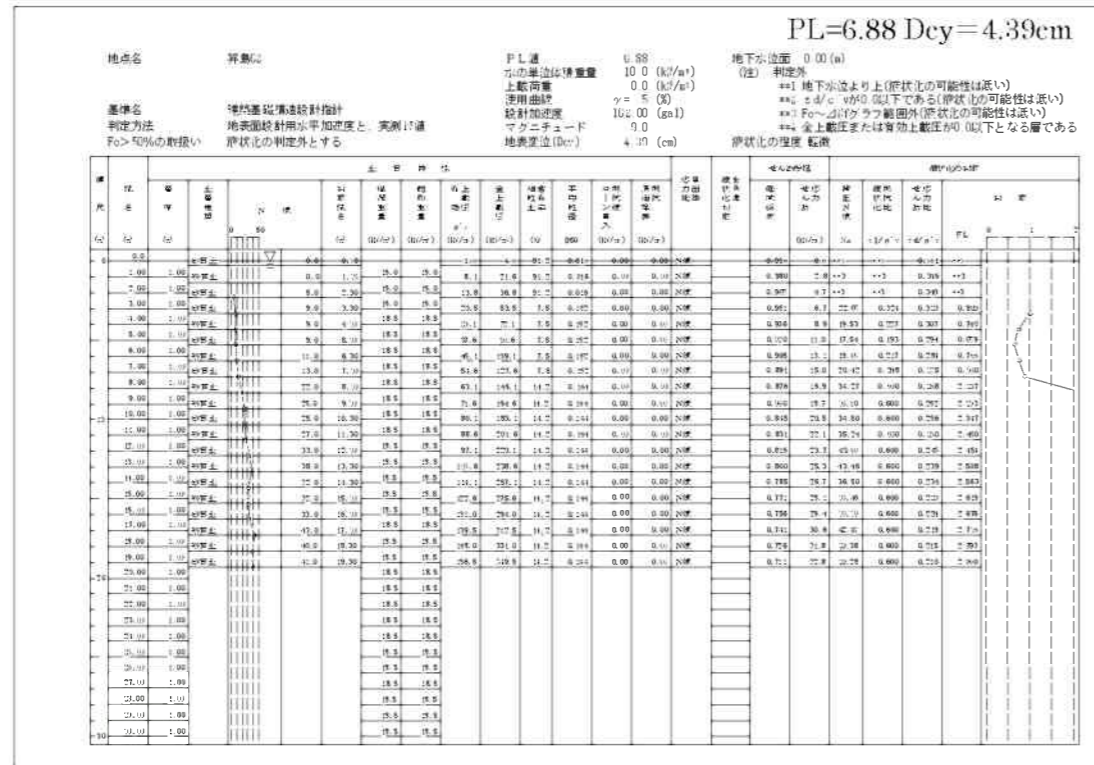
「建築基礎構造設計基準」に基づく液状化判定では、ガイドランス(案)に基づいた場合、殆ど液状化しない結果となった。一方、地表面最大加速度(観測値)を用いると、地表付近の砂質土層が液状化する結果となった。地震応答解析を実施した場合は、N値の小さい箇所では液状化が発生しているが、地盤全体としてはあまり液状化しない結果となった。



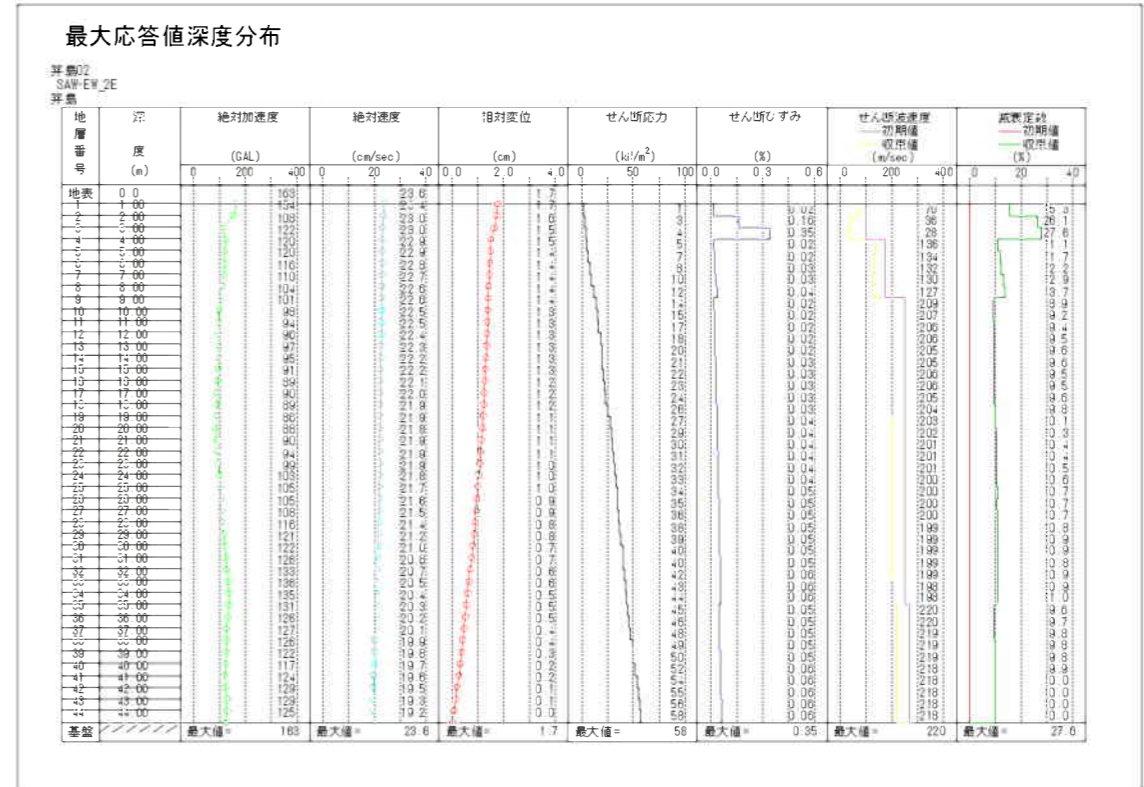
3. 利根川以北（筈島付近）

(1) 「建築基礎構造設計基準」(日本建築学会：2001年10月)に基づく液状化判定

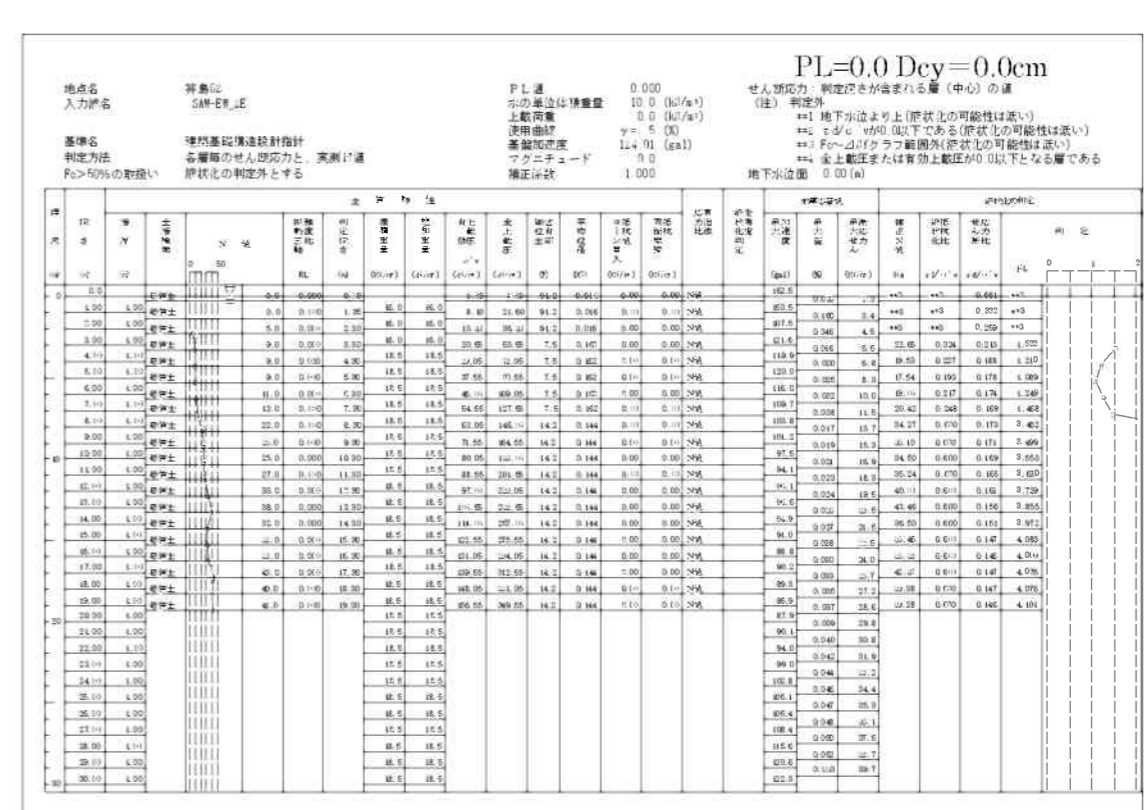
・地表面最大加速度：162gal (ガイドランス(案)に基づく)



2) 「建築基礎構造設計基準」(日本建築学会：2001年10月)に基づく液状化判定(地震応答解析を実施した場合)



・地表面最大加速度：249gal (観測値)



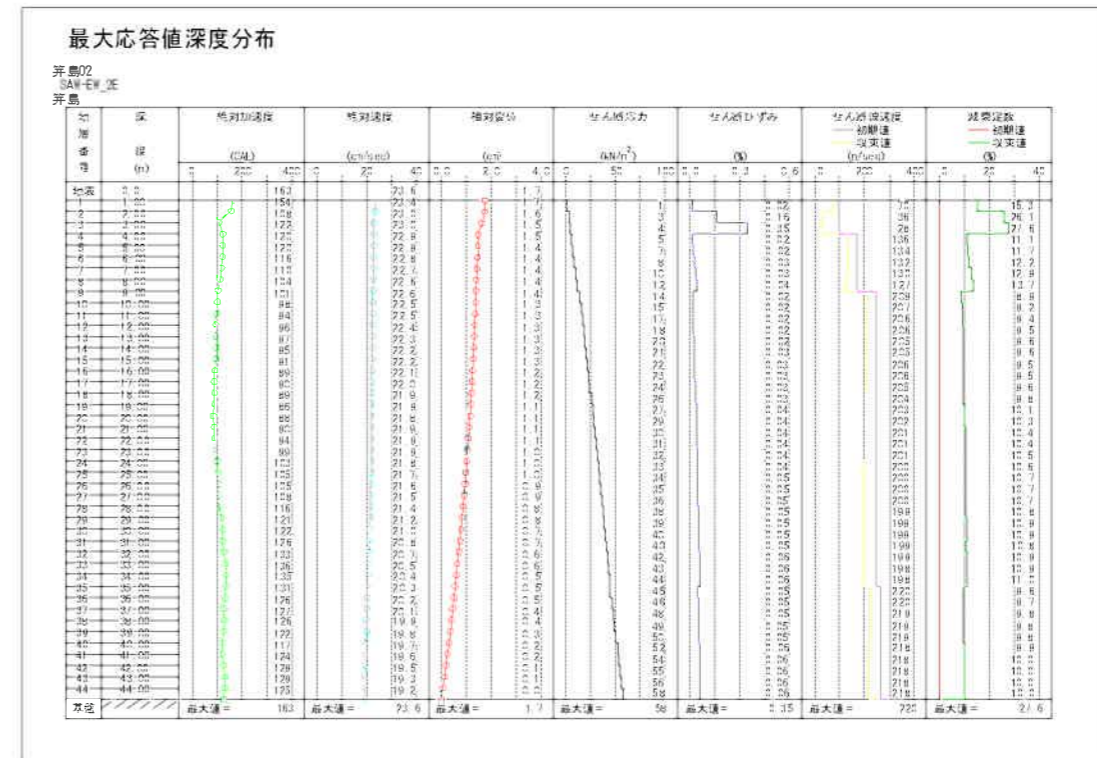
「建築基礎構造設計基準」に基づく液状化判定では、ガイドランス(案)に基づいた場合、および地表面加速度(観測値)を用いた場合ともに地盤全体が液状化する結果となった。地震応答解析を実施した場合は、全ての層で液状化していない結果となった。



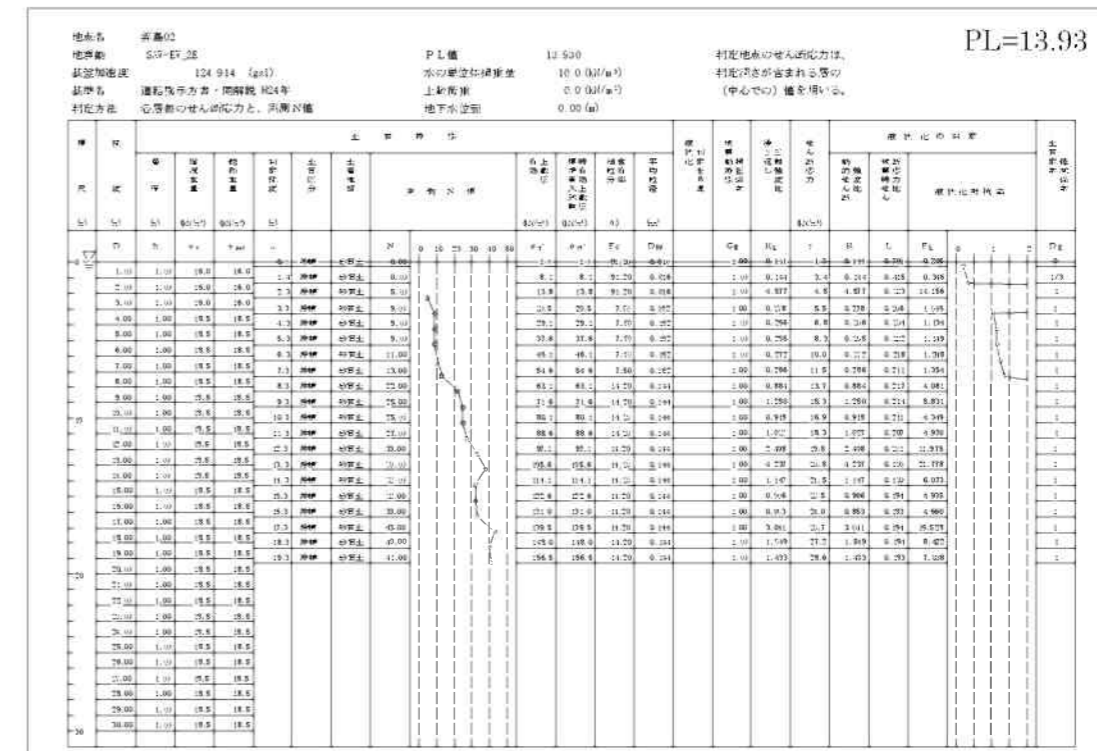
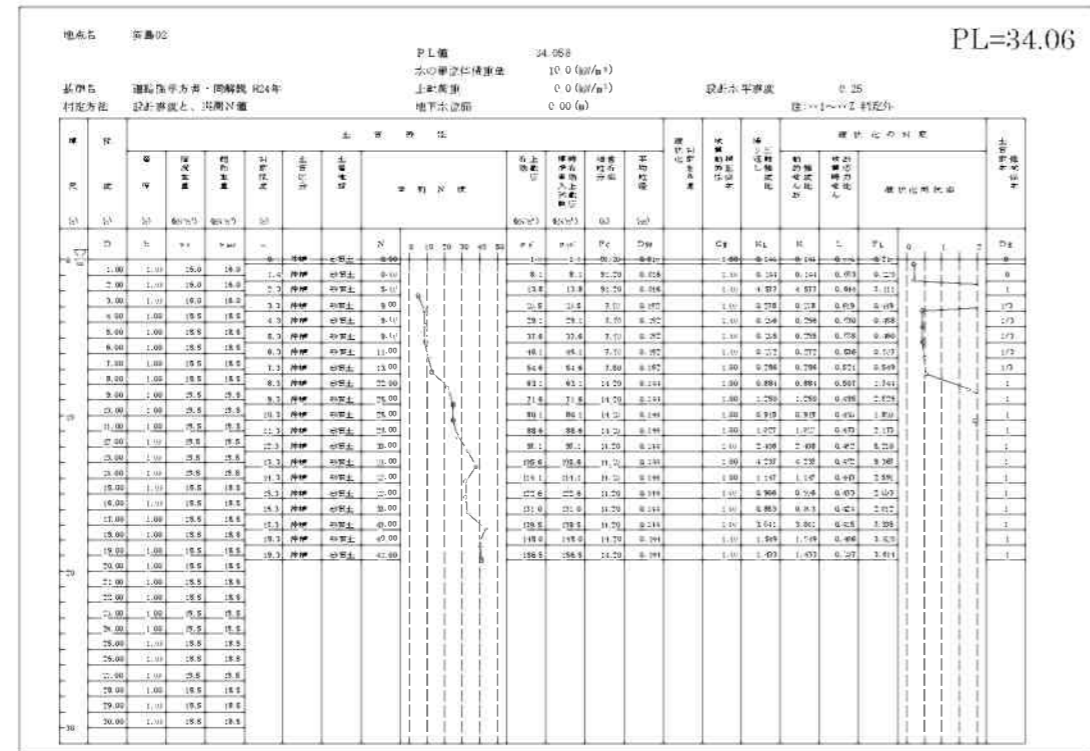
(3) 「道路橋示方書・同解説 V耐震設計編」(日本道路協会：平成 24 年 3 月)に基づく液状化判定  
 ・地表面最大加速度：162gal (ガイドランス(案)に基づく)



(4) 「道路橋示方書・同解説 V耐震設計編」(日本道路協会：平成 24 年 3 月)に基づく液状化判定(地震応答解析を実施した場合)  
 最大応答値深度分布



・地表面最大加速度：249gal (観測値)



道路橋示方書・同解説 V耐震設計編」に基づく液状化判定では、「建築基礎構造設計基準」に基づく液状化判定に比べて液状化程度が大きい結果となった。  
 各傾向は「建築基礎構造設計基準」に基づく液状化判定と同様、「建築基礎構造設計基準」に基づく液状化判定では、ガイドランス(案)に基づいた場合、および地表面加速度(観測値)を用いた場合ともに地盤全体が液状化する結果となった。  
 地震応答解析を実施した場合は、地表付近で液状化する結果となった。

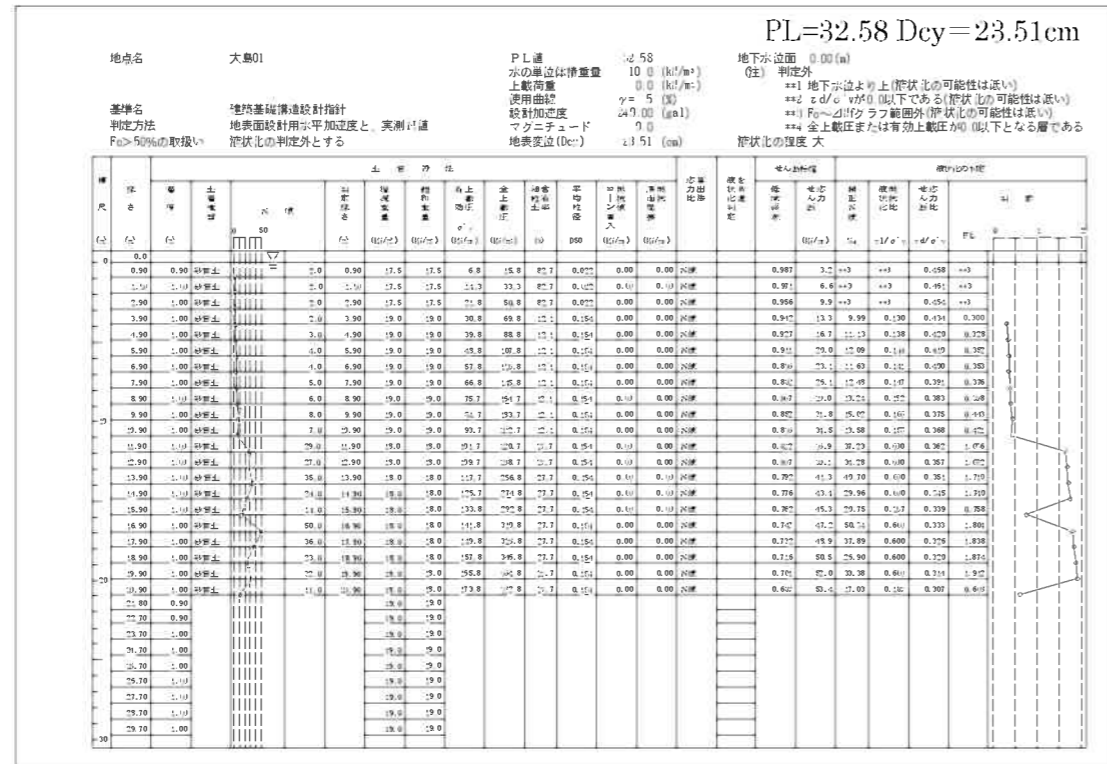
4. 利根川以北（大島付近）

(1) 「建築基礎構造設計基準」（日本建築学会：2001年10月）に基づく液状化判定

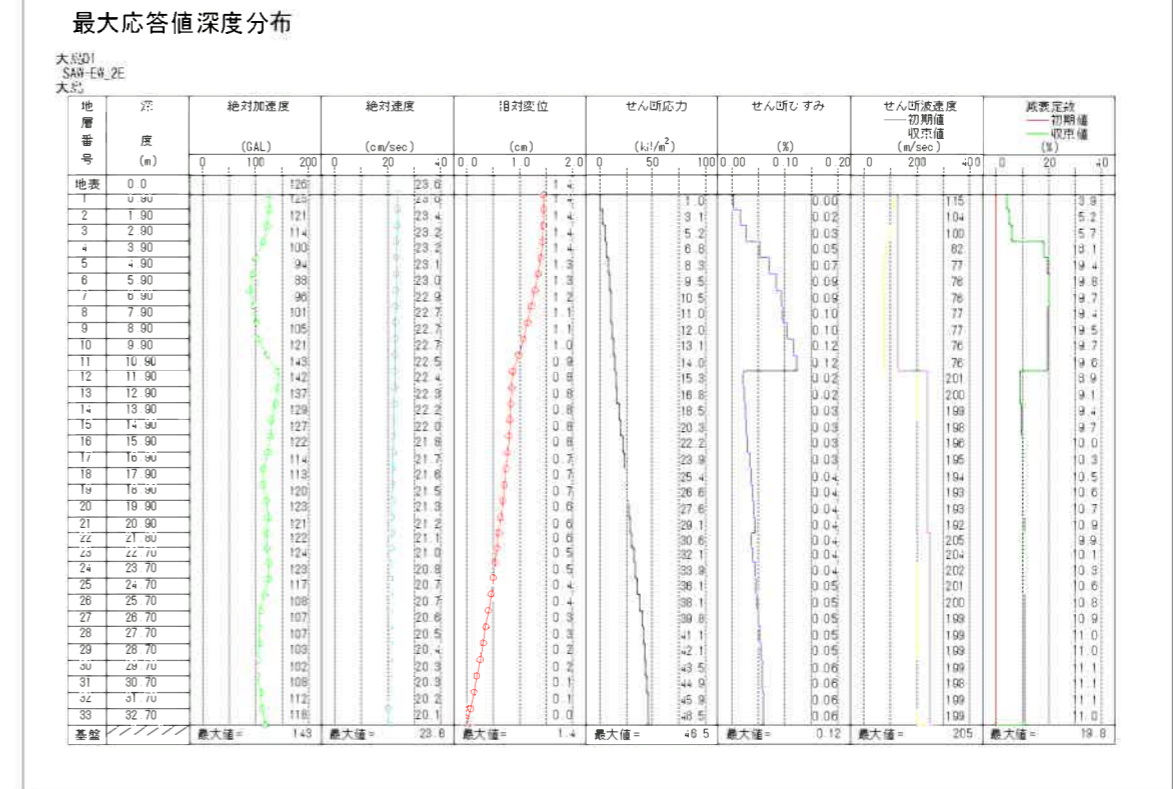
- ・地表面最大加速度：162gal（ガイダンス(案)に基づく）



- ・地表面最大加速度：249gal（特異値除去後）



2) 「建築基礎構造設計基準」（日本建築学会：2001年10月）に基づく液状化判定（地震応答解析を実施した場合）



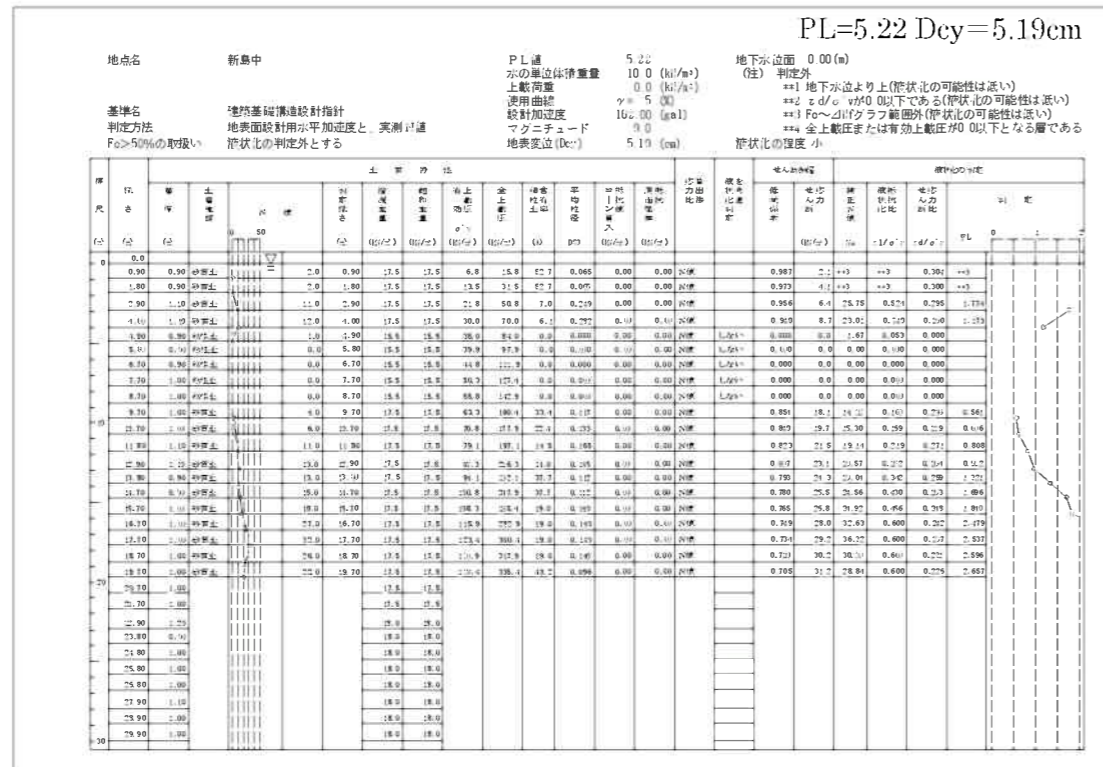
「建築基礎構造設計基準」に基づく液状化判定では、ガイダンス(案)に基づく場合、および地表面加速度（観測値）を用いた場合ともに地盤全体が大きく液状化する結果となった。地震応答解析を実施した場合は、基礎での入力地震動があまり増幅されていないため、N値の小さい箇所では液状化が発生しているが、地盤全体としてはあまり液状化しない結果となった。



5. 利根川以北（新島中学校）

(1) 「建築基礎構造設計基準」(日本建築学会：2001年10月)に基づく液状化判定

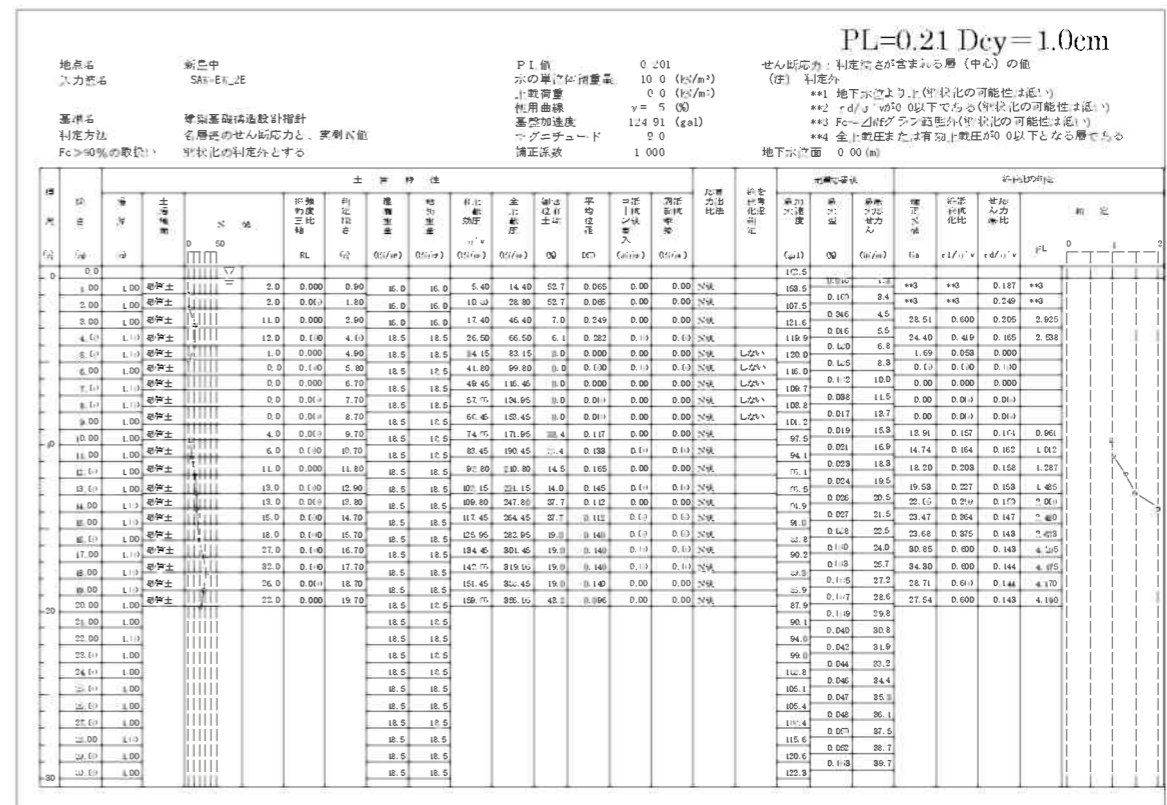
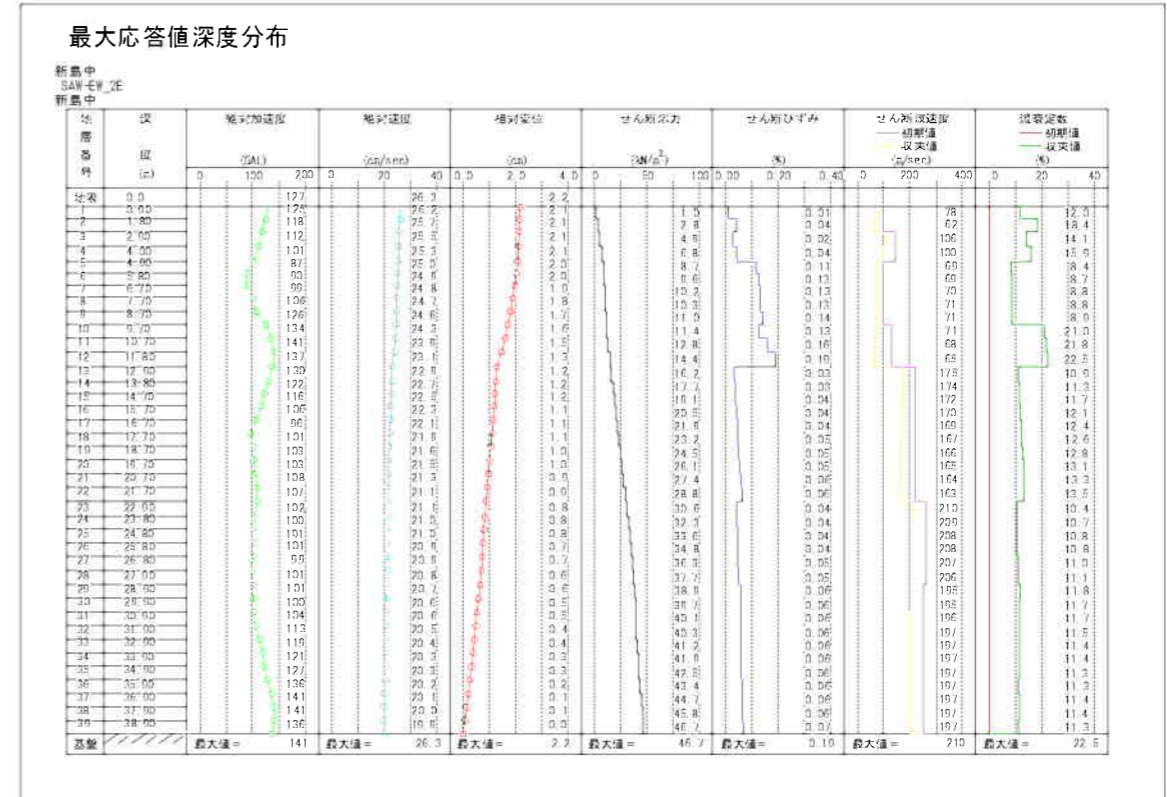
- ・地表面最大加速度：162gal (ガイダンス(案)に基づく)



- ・地表面最大加速度：249gal (観測値)



2) 「建築基礎構造設計基準」(日本建築学会：2001年10月)に基づく液状化判定(地震応答解析を実施した場合)



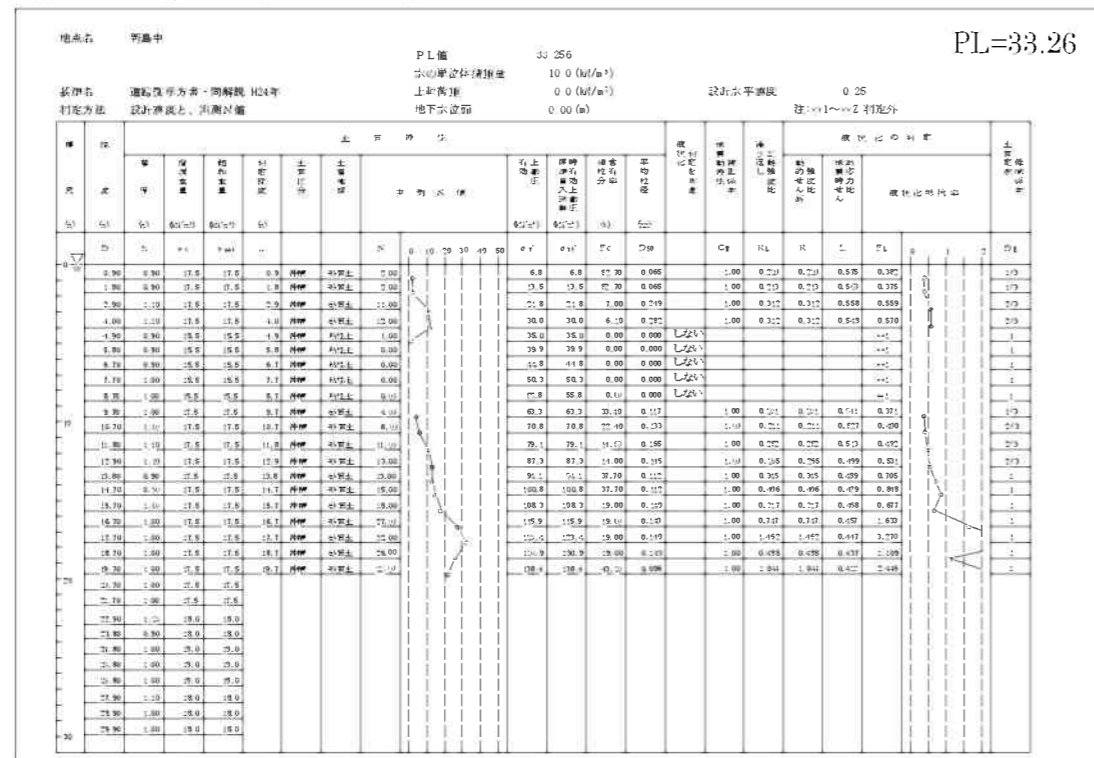
「建築基礎構造設計基準」に基づく液状化判定では、ガイダンス(案)に基づいた場合、10m以深のN値が低い土層で液状化する結果となった。一方、地表面最大加速度(観測値)を用いると、地表付近の一部および10m以深で液状化層が拡大している。地震応答解析を実施した場合は、基盤での入力地震動があまり増幅されていないため、ほとんど液状化していない結果となった。

(3) 「道路橋示方書・同解説 V耐震設計編」(日本道路協会:平成24年3月)に基づく液状化判定

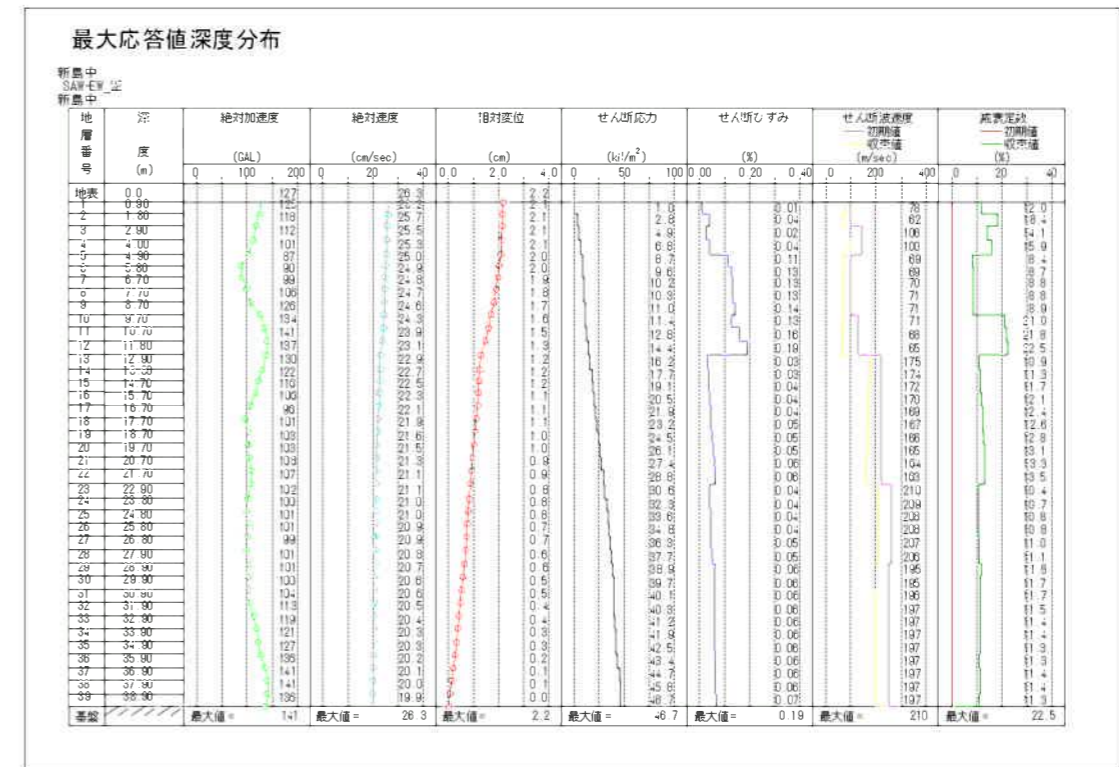
・地表面最大加速度:162gal (ガイドランス(案)に基づく)



・地表面最大加速度:249gal (観測値)



(4) 「道路橋示方書・同解説 V耐震設計編」(日本道路協会:平成24年3月)に基づく液状化判定(地震応答解析を実施した場合)

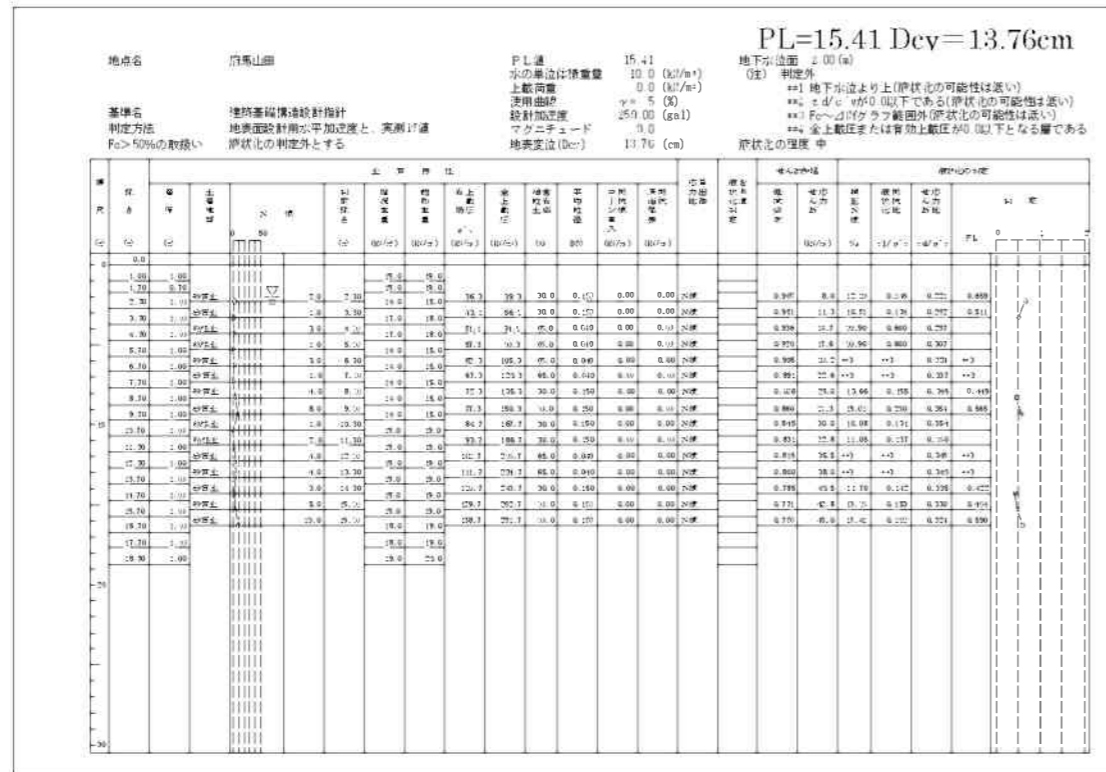


「道路橋示方書・同解説 V耐震設計編」に基づく液状化判定では、「建築基礎構造設計基準」に基づく液状化判定に比べて液状化程度が大きい結果となった。各傾向は「建築基礎構造設計基準」に基づく液状化判定と同様、「建築基礎構造設計基準」に基づく液状化判定では、ガイドランス(案)に基づいた場合、10m以深のN値が低い土層で液状化する結果となった。一方、地表面最大加速度(観測値)を用いると、地表の一部および10m以深で液状化層が拡大している。地震応答解析を実施した場合は、基礎での入力地震動があまり増幅されていないため、液状化していない結果となった。

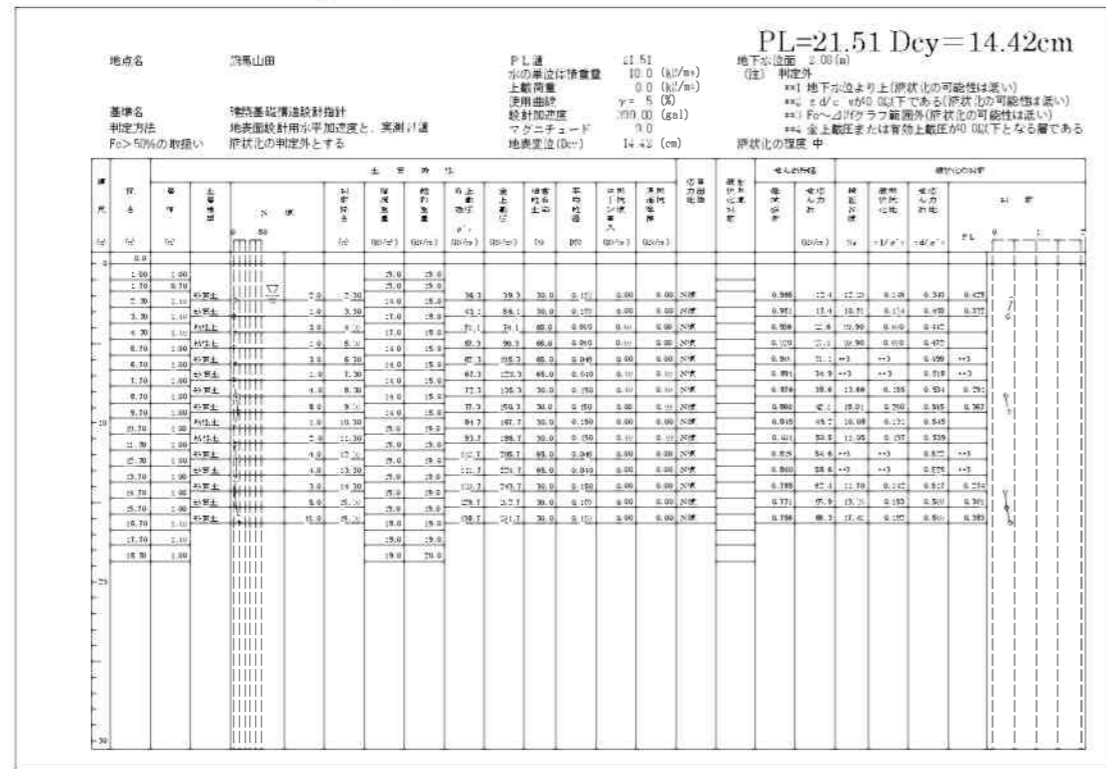
6. 府馬地区 (山田団地)

(1) 「建築基礎構造設計基準」(日本建築学会:2001年10月)に基づく液状化判定

・地表面最大加速度:259gal(ガイダンス(案)に基づく)

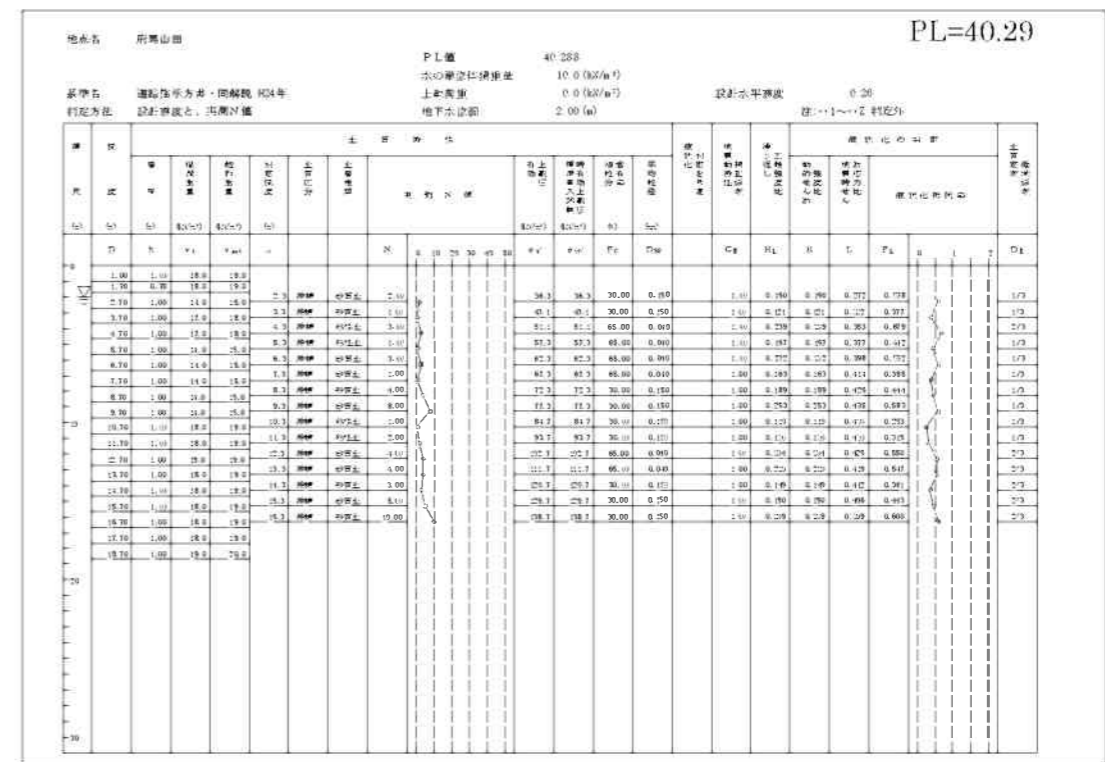


・地表面最大加速度:399gal(観測値)

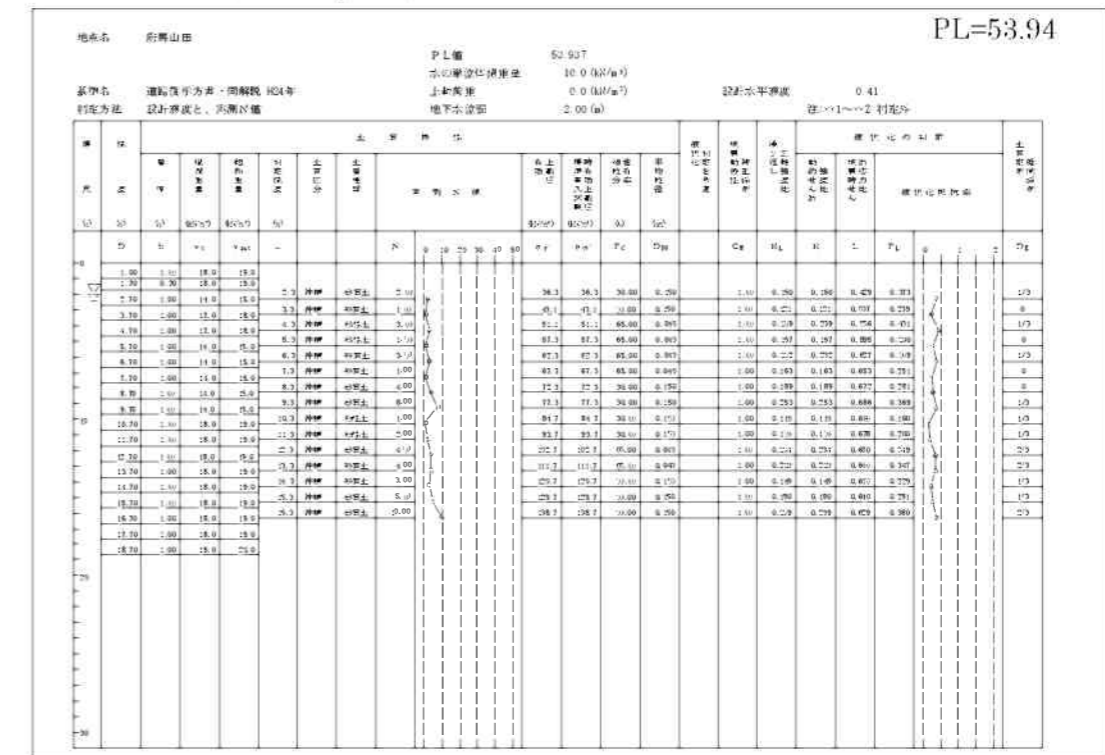


(2) 「道路橋示方書・同解説 V耐震設計編」(日本道路協会:平成24年3月)に基づく液状化判定

・地表面最大加速度:259gal(ガイダンス(案)に基づく)



・地表面最大加速度:399gal(観測値)



「道路橋示方書・同解説 V耐震設計編」に基づく液状化判定では、「建築基礎構造設計基準」に基づく液状化判定に比べて液状化程度が大きい結果となった。  
 「建築基礎構造設計基準」に基づく液状化判定ではガイダンス(案)に基づく場合、および地表面加速度(観測値)を用いた場合ともに地盤全体が大きく液状化する結果となった。  
 ※当該地点においては、基盤層までの地質調査データが得られていないため、地震応答解析は実施していない。